雑学書庫 知識の記録

小さな改善の積み重ねが大きな差を生む、カイゼン（Kaizen）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10698/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

工場の作業台の上の工具を手の届きやすい場所に移せば、一回につき数秒ほど節約できます。その程度では何も変わらないように思えますが、同じ動作を一日に何百回も繰り返す現場なら話は違ってきます。こうした小さな改善が大勢の人の手で毎日積み重なると、会社全体の品質とスピードが目に見えて変わります。この考え方を経営の手法として磨き上げたものが「カイゼン（Kaizen）」です。 カイゼンとは、簡単に言えば「一度の大がかりな変化の代わりに、現場の全員が小さな改善を絶えず積み重ねて組織全体をよくしていく経営手法」を意味します。日本語の「改善」をそのまま読んだ言葉で、トヨタ自動車の生産方式とともに世界に知られるようになりました。 本記事では、カイゼンという言葉の意味と出発点から、現場でなくそうとする三つのムダ、カイゼンを回す代表的な道具、そしてこの手法が残した教訓と限界まで、順に見ていきます。 小さな改善の積み重ねが大きな差を生む、カイゼンの原理と活用 カイゼンとは何か 日本語でカイゼン（改善）は、単に「よりよく改めること」を意味するごく普通の言葉です。 (1) 日本語ではごく普通の言葉日本で改善は、大きくても小さくても、一度きりでも何度でも、あらゆる改善を指します。言葉そのものに「絶え間なく」という意味や特別な哲学が込められているわけではありません。 (2) 海外では経営の概念になった日本企業、とりわ